貴志南っ子　12月　令和元年11月27日

「光陰矢の如し～時間と子ども～」

○先月の土曜参観日には多数のご来校ありがとうございました。早いもので、もう年末です。まさに「光陰矢の如し」。時間が矢のように去っていきます。

○ところで、感じたことがないでしょうか？子どもの時は、たった『一日』があんなに長く感じたのに、大人になるとすごく短く感じると。また、参観などで教室をのぞいたら、「子どもの頃、教室はもっと大きかったような…」と感じたことはありませんか。実際、広い場所にいるほうが狭い場所よりも時間が長く感じられるとの実験結果があるそうです。だから、同じ大きさの空間でも体が小さい子どもは広く認識し、時間の経過をゆっくり感じる傾向を強めているとの見方もあるそうです。

○また、退屈な会議で何度も時計を見る場合、時間がなかなか過ぎないと思うように、時間経過に注意を向けるほど、同じ時間でも長く感じられます。これが子どもと大人の違いに関係している可能性もあるそうです。子どもには「まだかまだか」と待ち遠しいイベント・予定が多いのに対して、大人になると慣れて刺激の少ない出来事ばかりのため、時間経過に注意を向ける回数が減り、その分時間の進み具合が速く感じられるのだという人もいます。

○年を取るにつれ、時間経過を速く感じる理由には、これらのいくつかが複合的に関係していると考えられているそうです。

○ところで「時計の読み方」は1年生から学習します。本校では 3 年前から先生たちからの発案で、チャイムを最小限にし、その代わり校内のあちこちに時計をつけました。その時計は、時刻と時刻の間の時間が量で分かるアナログ時計です。しかし、時刻を読めて、時刻と時刻の間の時間が計算できるようになっても、『時間』の感覚や概念が身につくのは別物です。高学年なら「あと3分」しか遊べないとなると諦めますが、低学年の子たちは平気で運動場に飛び出していきます。まだ「3分」の時間の長さの感覚が身についていないからでしょうか。

○小さい子どもにとって「1 時間前」も「1 か月前」も「この前」なのです。「明日」も「来週」も「今度」の感覚なのです。大人が言う「早くしなさい！」は、時間感覚がないから何分後に終わらせるとか始めるとか意味がわからないことでしょう。長期的な時間になると、7歳から9歳頃に時間の流れ（1 週間～2 週間）をつかむ感覚がつき、10 歳から 12 歳頃には 1 年先程度を見通せる力がつき、先のことを考えはじめられるということです。ということは小学校中学年～高学年でようやく計画性をもって活動できるようになってくるのですね。

○この 2019 年の 1 年間、おそらく大人の何倍もの感覚の時間を過ごして子どもたちが、成長した自分をぜひ振り返り、新しい 1 年を迎えてほしいと思います。　〈学校長〉

★貴志南小学校では、ホームページを設けています。http://www.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/
※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。